



神中だより

心を磨き、未来へと向かい、

自らやり抜く生徒の育成

～ 絆 ・ 夢 ・ 力 ～

No. 5 令和7年9月30日 京都市立神川中学校 校長

Email : kamikawa-c@edu.kyoto.city.jp

10月の予定

日	曜	予定	日	曜	予定
1	水	おいでよ週間(～9日)	16	木	
2	木	教育相談 進路懇談①	17	金	体育祭
3	金	教育相談 進路懇談②	18	土	
4	土		19	日	
5	日		20	月	体育祭予備日
6	月	教育相談 進路懇談③	21	火	
7	火	教育相談 進路懇談④	22	水	
8	水	進路懇談⑤	23	木	
9	木		24	金	
10	金	学習確認プログラム(全学年)	25	土	
11	土		26	日	
12	日		27	月	
13	月		28	火	1年生合唱コンクール(午後)
14	火	後期時間割開始 部活冬時間	29	水	2,3年生合唱コンクール
15	水	体育祭予行	30	木	

「常識なんて幻かも」

先日ふと、わが子が「スマホがないときはどうやってたん？」と、とても漠然とした質問をしてきました。具体的な場面を指摘されたわけでもなかったのに、「なんとかなってた」と、これも漠然とした返答をしたわけですが、実際になんとかなっていました。カーナビのなかった時代は道路地図を調べていました。連絡方法にメールやテキストメッセージなどはありませんでした。

通信方法の進化はとても便利な世の中に変えてくれました。特にインターネットが社会の高速化に果たした役割はとても大きいです。反面、息苦しさを感じてしまうこともありませんか？

私が運転免許を取得したころはㇿー免許が当たり前で、ㇿー限定免許は少し下に見られていました。でも販売している車のほぼ全部がㇿーとなつてゐる現在、ㇿー免許を持つ意味が薄れてきて、教習所でもㇿー免許が標準でㇿーはオプション扱いになるようです。私は未だにㇿー車に乗っていますが、変人扱いされそうです。変人なりに言わせてもらつと、みんながㇿー車に乗れば、ペダル踏み間違ひの事故がかなり減ると確信しています。

ネットも車も便利さを追求するあまり、失つてしまったものも大きいと思うのは、加齢のせいかもしれませぬ。

子供のころは学習する順序が決まつていて、それに乗っかるだけであつた。でも今の子供には多くの選択肢が与えられてい

て、それを選ぶだけでも大変な労力です。字を書くことを見ても、手書き↓キーボード入力↓フリック入力↓音声入力と、矢印の順序で便利になつていきます。そして私たち世代はこの順序で字を書く作業を覚えてきています。

その昔、リキッドペーパーという修正液があつたことを憶えていらっしゃる方は少数派です。キーボードよりフリックの方が便利と思う人が多いらしいです。また、アプリの進化で音声入力でも誤変換の確率が飛躍的に減っています。文章を書くという概念も変わってきていますね。書くという手を使った作業が、しゃべるという作業に取って替わられている状況です。音声入力は障がいのある人にとっては、福音です。ユニバーサルデザインは全ての人に有益です。これからの入力の主

役は音声となっていくと良いでしょう。

書字を苦手としている生徒がいるなら、いつそ音声入力でもかまわないんじゃないかと、最近考えるようになりました。以前の価値観なら、手書きをていねいに始めることからこだわっていたところでしょうが、デバイスの進化とともに価値観も変わっていくものなのだと思います。

価値観の変化で言う学校へ通うという常識も変わりつつあるのではないかと思います。不登校と聞くと、とてもネガティブな印象を受けると言うのが現在の価値観ではあるでしょうが、不登校も一つの選択肢と捉えると見方が変わってくるのではないのでしょうか。

学びの場は、学校だけに限定されません。通信環境の整った現代は、

どこにいても情報にアクセスでき、学習もできます。大人が価値観を変えなければ、いつまでたっても不登校は選択肢の一つにはならないでしょう。

通信制高校への入学者が、京都府で7から8%になっているということです。中学校でもオンラインフリースクールなどができています。学校という場で集団生活に息苦しさを感じて、学習に支障をきたしているなら、思い切って環境を変えるのも一つではないでしょうか？

価値観や常識をアップデートしつつ、学校教育も変わっていかねればなりません。そのためには私たち大人が学び続けることが大切です。学び、考え続け、生徒たちに有益な教育活動を提供できるようになっていくます。忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。

朝晩は涼しくなってきました。「」の秋」をお楽しみください。

最近、昔のマンガを引っ張り出して読んでいます。「MASTER KEATON(マスターキートン)」は、やっぱり名作です。

今号も、だらだらと書き連ねてしまいました。最後までお読みいただきありがとうございます。